

令和6年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価

学校園名 赤穂市立高雄小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

認め合い 学び合い 夢に向かって進む 児童の育成

- 互いのよさに気付き、認め合い、共に伸びていこうとする集団づくりを実践する。
- 少人数の強みを生かし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により、自ら学ぼうとする児童の育成を図る。
- 「地域のあかり」となる学校を目指し、地域学校協働活動を推進するとともに、ふるさとを大切にする児童の育成を図る。

2 本年度の学校(園)重点目標

- 豊かな心の育成
- 確かな学力の育成
- 命・体・心を守る力の育成
- ふるさとを愛する心の育成
- 「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざした職場づくり
- 保護者や地域に信頼される学校づくり

【総合的な学校園関係者評価】

- ・目指すべき学校像の実現に向けて努力が行われている。
- ・児童との対話を大切にしながら丁寧な教育活動が展開されている。
- ・地域との関わり・地域住民との交流を視野に入れた取組がなされている。
- ・適切に学校運営が行われている。
- ・教職員の働きやすい環境づくりは、子どもたちの教育にも大きく影響するため、引き続き業務改善に期待する。
- ・コミュニティースクールの特性を生かし、現在の時代に即した小規模高頻度の地域との交流を促進してほしい。
- ・地域との関わりが多く、教職員や保護者の見守りが手厚いため、子どもたちは安心して学校に通うことができている。
- ・縦割りのなかよし班活動で他学年と関わることで、気軽に話ができる環境づくりができている。
- ・家族でなくても助けてくれる方が周りにたくさんいるということ子どもたちに知ってもらいたい。

3 自己評価結果 (A～D) A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

◎(4)：適切である ○(3)：ほぼ適切である △(2)：あまり適切でない ×(1)：適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
	項目	指標						
(1)豊かな心の育成	項目	①人権教育の推進	A	A	④本年度より地域の方をお招きし、キャリアについてご講話いただいた。いろいろな職業の仕事内容を知ると共に、その方の願いを知ることができたので、今後とも継続して実践していく。次年度は、高雄地区のために活動している方々の活動内容や願いを知る機会も設けたい。	◎ (3.7)	○ (3.4)	・いろいろな職業を知ることが、子どもたちのキャリア形成に有用であるため、ゲストティーチャーによる講話を継続してほしい。そのために、早くからPTAや地域の方々に声かけをしていると協力が得られやすいと考える。 ・子どもたちが将来なりたい姿を思い描き、そのために目標をもって努力する指導を行ってほしい。
	指標	自尊感情や自己有用感、他者を思いやる心情を全ての教育活動を通して育んでいる。	A					
	項目	②いじめ・不登校問題への組織的な対応	A					
	指標	いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めたり、不登校問題にチーム学校として対応したりしている。	A					
(2)確かな学力の育成	項目	③特別支援教育の充実	A	A	②児童・保護者アンケートで評価が低かった読書活動について、「本の紹介」「読み聞かせ」等の活動を推進する。 ③ICTの特性である空間的・時間的制約	◎ (3.7)	◎ (3.6)	・タブレットを活用した学習が定着してきている。教職員の負担軽減のためにも活用促進を望むが、デジタル学習のみでは学習効果が十分ではないと言われているため、従来型の学習とのハイブリッドで進め
	指標	全教職員の共通理解のもと、きめ細やかな指導・支援及び合理的配慮の提供を行っている。	A					
	項目	④キャリア教育の推進	B					
	指標	地域の方を招いての体験活動等を通して、なりたい自分に向けて努力する児童を育成している。	A					
(2)確かな学力の育成	項目	①「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造	A	A	②児童・保護者アンケートで評価が低かった読書活動について、「本の紹介」「読み聞かせ」等の活動を推進する。 ③ICTの特性である空間的・時間的制約	◎ (3.7)	◎ (3.6)	・タブレットを活用した学習が定着してきている。教職員の負担軽減のためにも活用促進を望むが、デジタル学習のみでは学習効果が十分ではないと言われているため、従来型の学習とのハイブリッドで進め
	指標	主体的・対話的で深い学びに通じる学びの個別最適化と多様な他者との協働に努めている。	A					
(2)確かな学力の育成	項目	②基礎・基本の力の定着と向上	A	A	②児童・保護者アンケートで評価が低かった読書活動について、「本の紹介」「読み聞かせ」等の活動を推進する。 ③ICTの特性である空間的・時間的制約	◎ (3.7)	◎ (3.6)	・タブレットを活用した学習が定着してきている。教職員の負担軽減のためにも活用促進を望むが、デジタル学習のみでは学習効果が十分ではないと言われているため、従来型の学習とのハイブリッドで進め
	指標	Tタイムを効果的に活用することで、漢字・計算等の基礎学力の定着を図っている。	A					

	項目 ③ICTを活用した学習活動の日常化	B		の緩和実現から、オンラインでの多様な他者との交流や見学学習を行う。また、タブレット端末の持ち帰りを推進し、家庭学習での使用を習慣化したり、教職員の技能向上のため、職員研修を学期に1回程度実施したりする。			ていってもらいたい。 ・ICT活用の技能を駆使しながら自立できる人へと育てほしい。
(3)命・体・心を守る力の育成	項目 ①体育・保健学習の充実と日常的な運動や遊びによる体力づくり	A	A	①保護者・児童アンケートで評価が低かった外遊びについて、休み時間の保障や異年齢集団での遊びを推進し、遊びの中から体力の向上を図る。 ②危機管理のための研修機会を設ける。	◎ (3.7)	◎ (3.6)	・体を動かすことが得意ではない児童も外遊びが楽しめるようなニュースポーツ等を取り入れるとよい。 ・体力づくりが目標となるような遊び方があるのか模索してほしい。 ・子どもの発達速度はそれぞれ異なるため、集団生活の中で注意深く見守ってほしい。
	指標 主体的に体力の向上を図ったり、自らの健康に留意したりする児童の育成に努めている。						
	項目 ②健康・安全面の充実	A					
	指標 教育相談・危機管理体制の充実を図っている。						
(4)ふるさとを愛する心の育成	項目 ③家庭と一体となった生活習慣の改善と確立	A					
	指標 「早寝・早起き・朝ごはん」運動を通して、家庭への啓発を行い、基本的な生活習慣の定着を図っている。						
(4)ふるさとを愛する心の育成	項目 ①地域学校協働活動の推進	A	A	①学校と地域が直に双方向で交流する機会を設ける。 ②幼稚園、中学校と連携し、授業交流や交流行事等を活発化する。	◎ (3.6)	◎ (3.6)	・幼稚園児がなかよし班活動に参加し、小学生と遊べたことがとても嬉しかったようなので、機会を増やしてほしい。
	指標 地域の人、自然との関わりの中でふるさと高雄を愛する心情を育てている。						
(5)「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざした職場づくり	項目 ②地域・家庭との連携	A					
	指標 保護者、地域、幼稚園、中学校との連携を進めながら、よりよい教育活動を行う環境を整えている。						
(5)「働きやすさ」と「働きがい」の両立をめざした職場づくり	項目 ①業務改善の推進	B	A	①定時退勤日・ノー会議デーの完全実施と共に、教職員の意識改革を図る。また、継続して、全職員の業務改善のアイデアを募り、実施する。 ②チーム担任制を取り入れ、教職員全体の指導力向上と組織力強化を目指す。	◎ (3.6)	◎ (3.6)	・教職員には業務改善、働き方改革を行う中で、無理をしないように働いてほしい。
	指標 定時退勤日・ノー会議デーの完全実施、業務改善のアイデア募集を通じて、働きやすく、働きがいのある職場づくりを行っている。						
(6)保護者や地域に信頼される学校づくり	項目 ②教職員の協働体制の確立	A					
	指標 教職員一人一人の能力・適性を生かした人員配置や「チーム学校」としての組織的な対応を心がけている。						
	項目 ①教職員の資質向上	A	A	①個々の教職員が得意分野をもち、力を発揮できる環境をつくる。 ②学校評価結果を保護者、地域に周知すると共にその結果を教育活動の改善に生かす。 ③児童自身の学びを保護者や地域の方に発信する場を設ける。	◎ (3.6)	◎ (3.6)	・地域回覧に学校だよりがあり、その中の子どもたちの楽しそうな笑顔をいつも楽しみに見ている。
	指標 授業公開や講師招聘研究授業等の校内研修の実施、個々の教職員の研究と研鑽により資質の向上を図っている。						
項目 ③危機管理体制の確立	A						
指標 毎月の安全点検、危機管理研修等の実施により、危機管理体制の確立に努めている。							
項目 ④積極的な情報発信	A						
指標 学校・学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信を行うと共に授業参観、学校行事等の学校公開の機会を適切に設けている。							

自己評価における特記事項

評価資料の数値は、評価平均点を示しており、下記の点数で自己点検を行い、教職員数で平均している。

4 よくできた 3 できた 2 あまりできなかった 1 できなかった

自己評価資料は、自己点検の平均4～3.5をA 3.4～3をB 2.9～2.5をC 2.4以下をDとしている。

職務が異なる場合は、評価項目がすべて当てはまるとは限らない。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・仕事の関係で昼間の会合には出席できなかった。